



# みなとまち新潟 歴史探訪②

問 歴史文化課  
☎ 025-226-2584

## 幻の黒い灯台

今の新潟西港の灯台は西突堤の先にある赤い灯台で、開港以来5代目となります。この灯台は、大正14(1925)年に設置された4代目灯台(赤色)が昭和39(1964)年の新潟地震後に建て替えられたものです。

初代灯台は、木組み檣やぐらの上に灯火機を据えた簡単なもので、開港後の明治2(1869)年に設置されました。

新潟市民に長く親しまれたのは3代目灯台で、明治15(1882)年に建てられた高さ4丈3尺(約13m)の白い木造の六角灯台でした。この灯台は使命を終えた後、山ノ下に移築され「臨港台」と呼ばれ、戦時中に焼失するまで役割を果たしました。

新潟港の灯台の歴史の中で存在期間が最も短かったのが2代目灯台です。明治10(1877)年に新潟県が船見町2丁目に設置した黒色の六角灯台でした。しかし、灯台の管轄が県から国に移管されたため、わずか5年で3代目灯台に建て替えられました。この灯台は、残っている資料が少なく詳細は不明です。明治13年に描かれた絵図面などからその姿をしのぶことはできますが、まさに幻の灯台ともいえるのです。



【2代目の黒い六角灯台】  
明治13年「新潟沿革図」  
(新潟市歴史博物館蔵)より



【3代目の白い六角灯台】